



# LIXIL FamiLock 電池式 取付け説明書

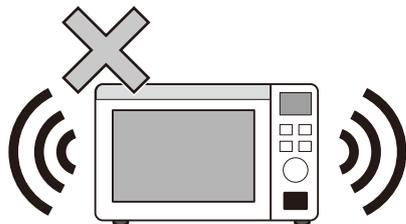
- この説明書は、必ず取付けされる方にお渡してください。
- ハンドルの種類や商品によって、室外側リーダーやサムターンなどの形状が絵と異なる場合がありますが、手順・要領は同じです。

## 取付け上のお願い

- 次のような場所への玄関ドアの設置は避けてください。故障や正しく作動しない原因になります。
- ・軒が短く扉を開けた際に扉に直接雨水がかかるところ。



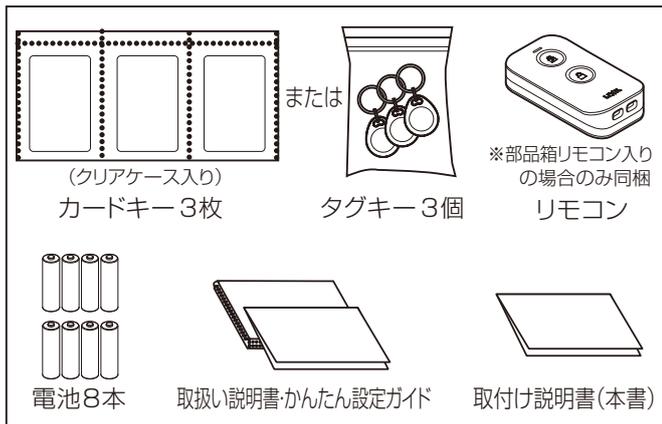
- ・他の電波式機器から2m以内のところ。
- ・電子レンジなどの電波的なノイズを出す電化製品から2m以内のところ。



- ・玄関ドアが電波を通しにくい壁や金属物で囲まれているところ。
- ・本製品の使用環境温度範囲は-10℃~50℃、使用周囲湿度範囲は20%~90% RHです。温度が上昇するところ(直射日光・直接暖房が当たるところ・ボイラーの近くなど)や-10℃よりも温度が低くなる場合があるところ、通気性が悪く湿気が多いところには使用しないでください。また、寒冷地では、風除室を設置してご使用をおすすめします。
- 電動ドライバーは使用しないでください。高トルクのため、部品が破損し不具合につながる場合があります。

## 梱包内容の確認

### ●部品箱



## ●把手セット

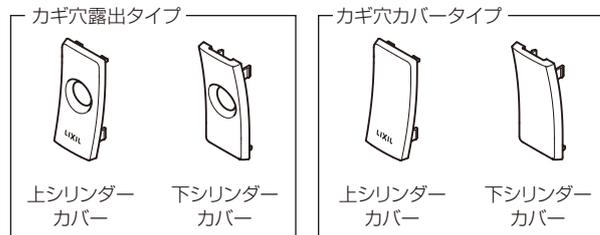
外側把手		内側把手	
(予備サムターンキー 1個)			
台座プレート	皿小ねじ M5×20	薄平小ねじ M4×12	なべ小ねじ M5×30
(上用) (下用) 各1個	(台座プレート取付け用) 4本	(内側把手取付け用) 4本	(シリンダー取付け用) 4本

## ■別途手配品

### ・シリンダーセット

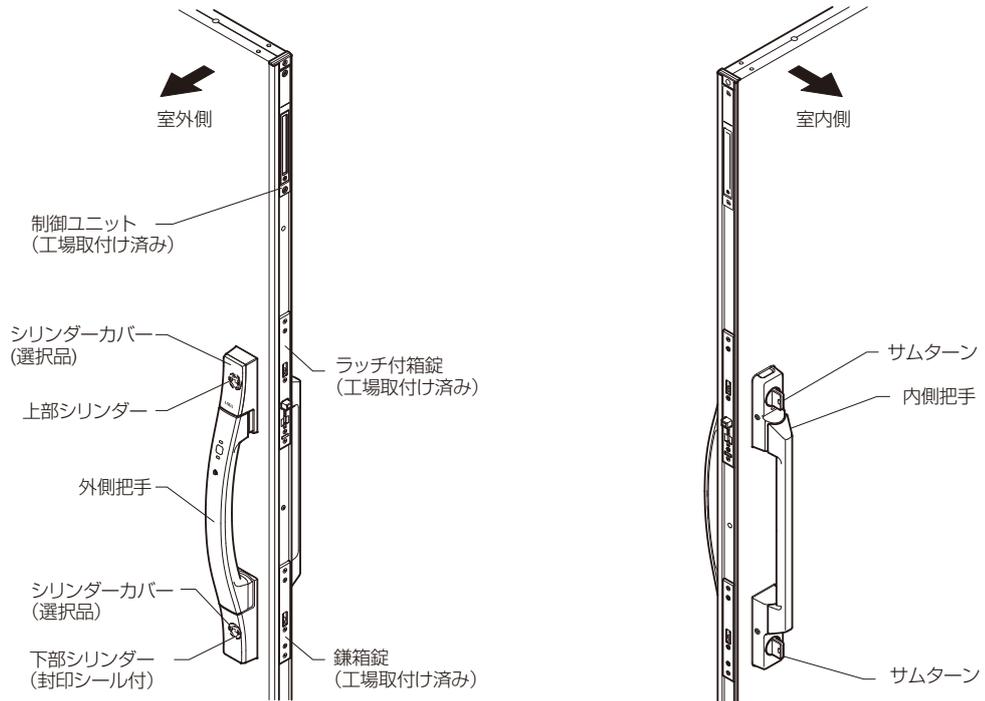


### ・シリンダーカバーセット



※シリンダー部……カギ穴あり/なし選択可能です。  
 ※玄関引戸CEはカギ穴カバータイプのみ

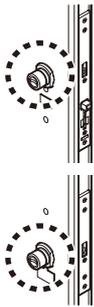
## ■取付け部品一覧



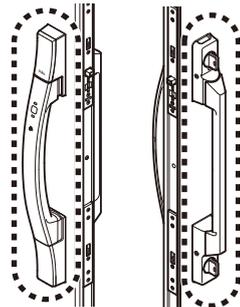
## ■部品取付け手順

●部品の取付け手順の一例と本紙に記載している内容を以下にまとめてあります。

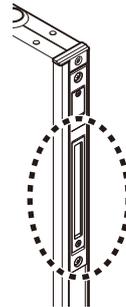
### ①シリンダーの取付け



### ②コネクターの接続、 把手の取付け



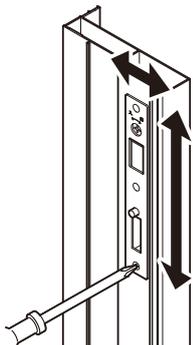
### ③電池を入れる



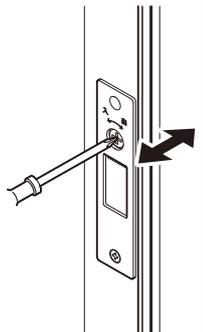
### ④電池を入れた後の作動確認



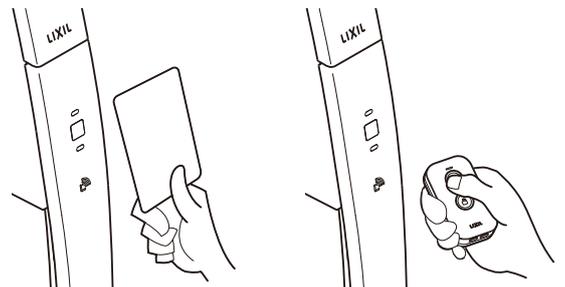
### ⑤ストライクの調整 - 1



### ⑥ストライクの調整 - 2



### ⑦カードキー、タグキー、リモコンを使った作動確認



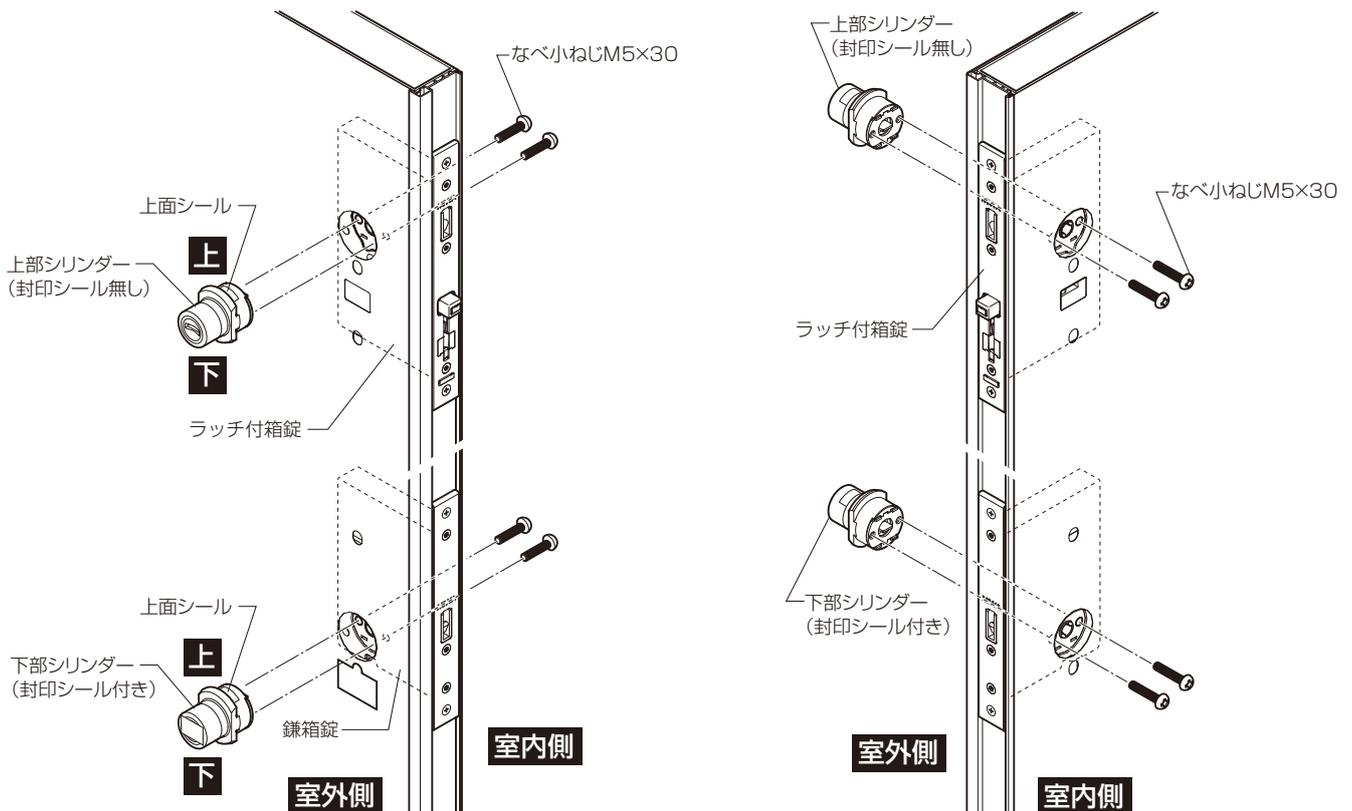
## ① シリンダーの取付け

### ①-1 上部シリンダーの取付け

- ① 上部シリンダー(封印シール無し)の「上面」シールを上に向けます。
- ② シリンダー背面の出っ張り(4ヵ所)を、ラッチ付箱錠(上部箱錠)の角穴に合わせて差込みます。
- ③ 室内側から、シリンダーを箱錠になべ小ねじで固定します。

### ①-2 下部シリンダーの取付け

- ① 下部シリンダー(封印シール付き)の「上面」シールを上に向けます。(封印シールの文字が読めるように上に向けます。)
- ② シリンダー背面の出っ張り(4ヵ所)を、鎌箱錠(下部箱錠)の角穴に合わせて差込みます。
- ③ 室内側から、シリンダーを箱錠になべ小ねじで固定します。



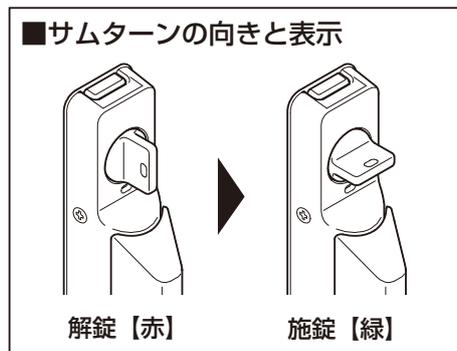
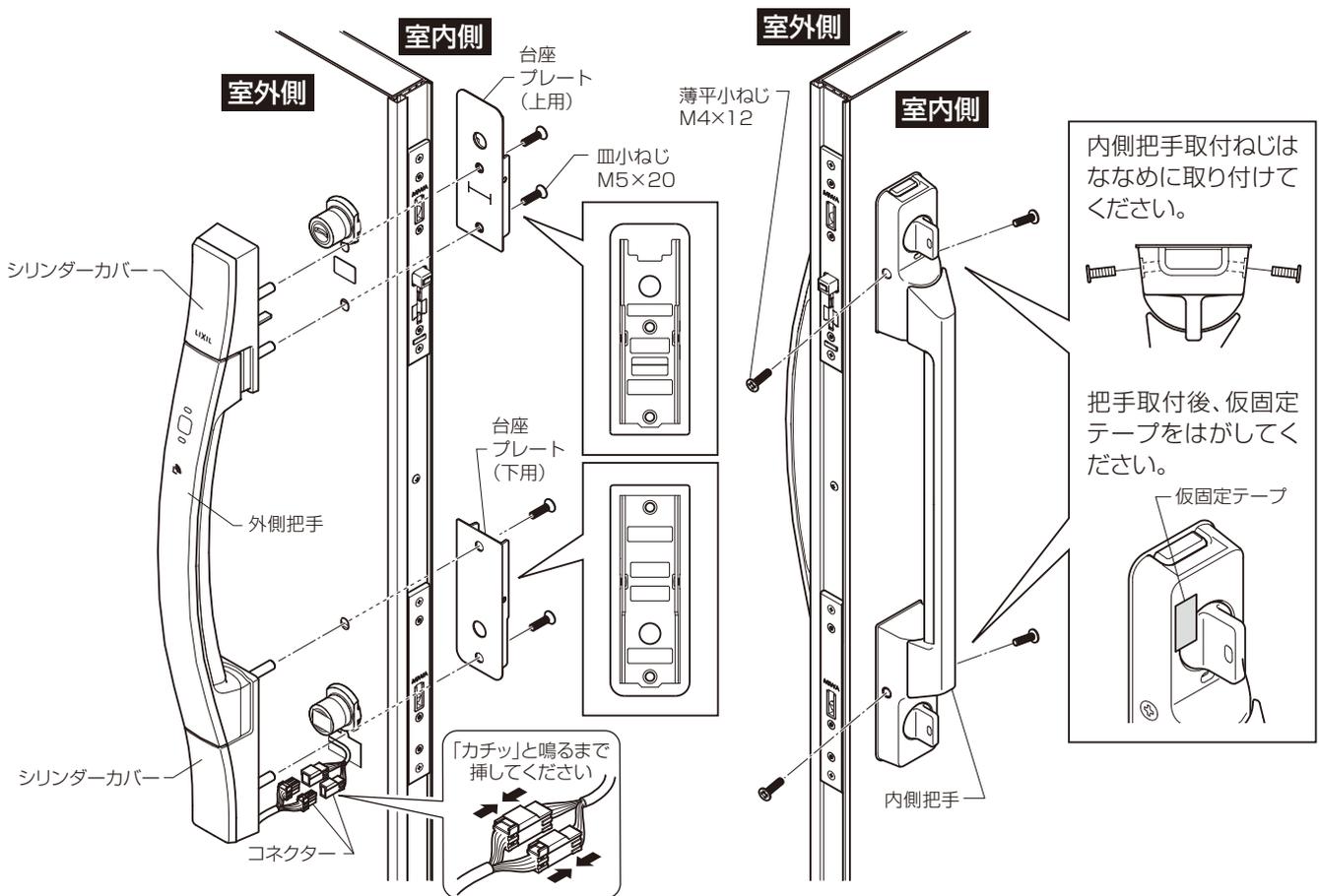
## ■ コンストラクション装置について

- 封印シールが張られていないシリンダーには、コンストラクション装置が組込まれています。施工の際は、工事専用のコンストラクションキーをご使用ください。施工後、お施主さま専用キーを使用するとコンストラクション装置が解除され、以後はお施主さま専用キーでなければ開閉できません。
- 封印シールが張られているシリンダーには、コンストラクション装置が組込まれていません。



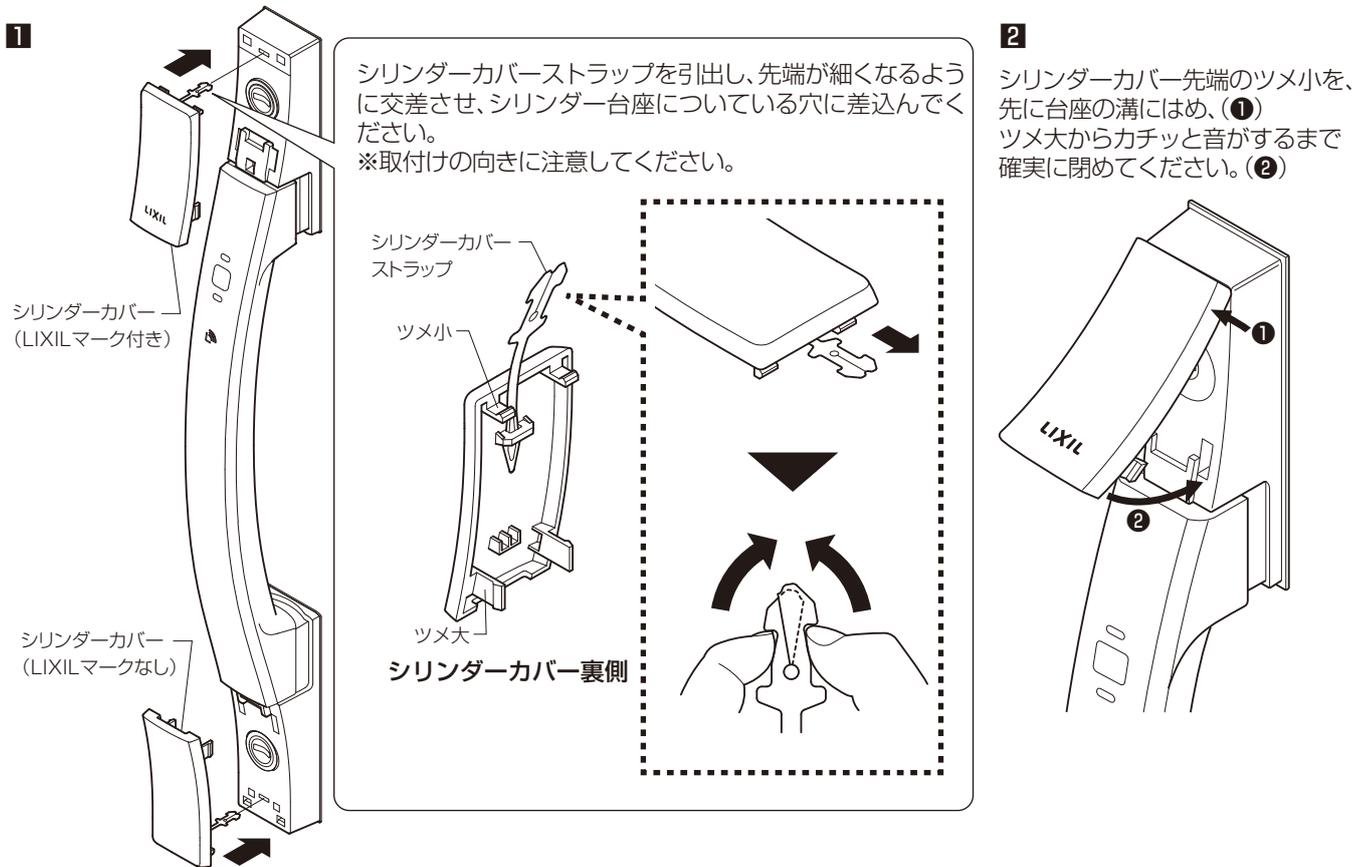
## ②コネクターの接続、把手の取付け

- ①ドア本体の把手取付け加工(下部)からコネクタを引き出します。
- ②外側把手のコネクタが出ている側を下に向けます。
- ③コネクタを接続します。
- ④外側把手を室外側からドアの切欠きにあわせて差込みます。(落下防止のため、⑤で固定するまで手を離さないでください)  
このとき、余った配線はドア本体内に収納し、把手の取付け時に配線を挟み込まないように十分注意してください。
- ⑤台座プレートと外側把手を皿小ねじで固定します。
- ⑥サムターンを縦にした状態で、サムターンの軸を上下箱錠の穴に合わせ、内側把手を台座プレートに差込みます。
- ⑦内側把手を薄平小ねじで台座プレートに固定します。
- ⑧外側把手にシリンダーカバーを取付けます。(P5「シリンダーカバーの取付方法」参照)

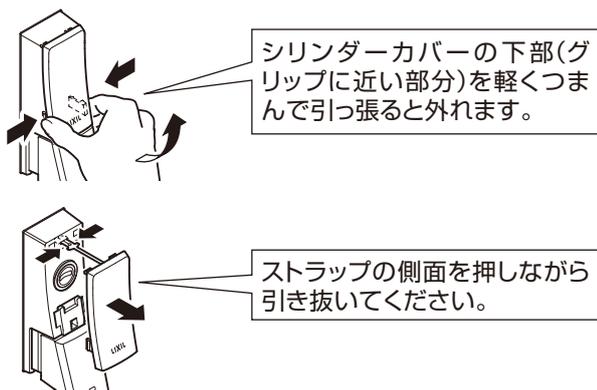


## ■シリンダーカバーの取付け方法

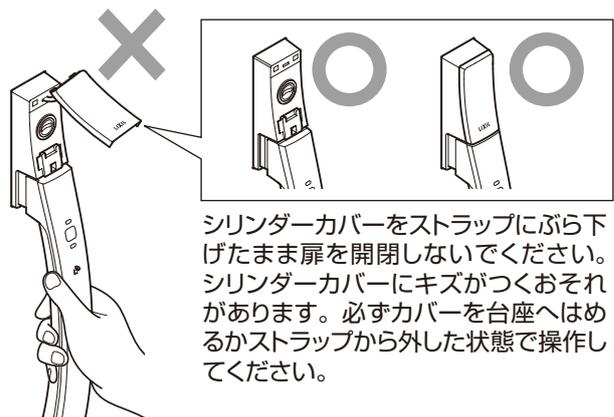
- シリンダーカバーはキズ・破損防止のため、施工完了後に取り付けてください。
- ※シリンダーカバーカギ穴露出タイプの場合は**2**のみ



## ■シリンダーカバーの外し方

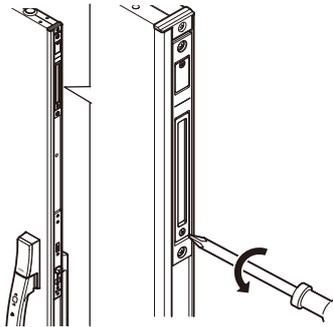


## ■把手操作時のお願い



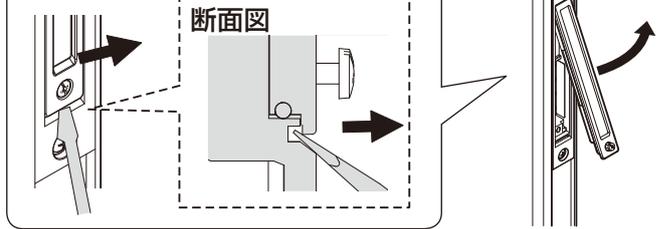
### ③電池を入れる

③-1 電池フタのねじをゆるめます。

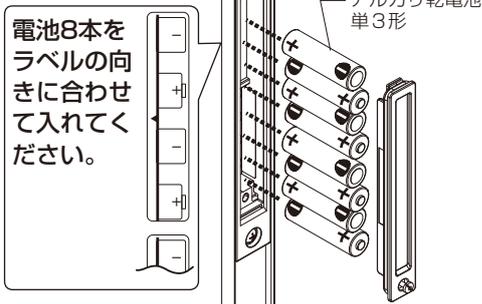


③-2 電池フタを外します。

フタが固い場合は、下図のようにマイナスドライバー等で外してください。



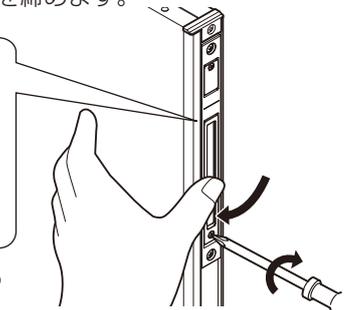
③-3 電池を入れます。



③-4 電池フタを閉めねじを締めます。

上部のツメをひっかけてから付けてください。

ねじはフタを押えながら締めてください



電池フタを閉めた後、ブザー音(ピ音)が鳴る場合は、以下の原因が考えられます。

ブザー音	お知らせ内容
ピーピ×4 ●●●●×4	上箱錠のコネクタ接続が来ていません
ピーピピ×4 ●●●●×4	下箱錠のコネクタ接続が来ていません
ピ----- ●-----	・電池の入れ間違い ・電池フタが半開きになっている

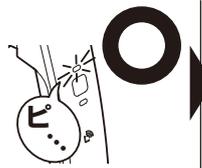
### ④電池を入れた後の作動確認

#### 操作



#### 状態

施錠した途端、「ピ音」が5回鳴り、LEDが橙色に点滅する場合



#### 結果

正常にドアが開いている事とサムターンが手動で回された事を感じています。  
※確認後、引渡しまでは電池を抜いて利用ください。

音が鳴らない場合



異常です。下記の点検手順①を参考に確認を行いメンテナンスしてください。

#### ■点検手順①(上記手順で異常になった場合のみ点検を実施)

#### 操作

リーダーのボタンを押す。(扉を開けた状態で実施してください。)



#### 状態

LEDが橙色に点滅し、ピ音が5回鳴る。

何にも起こらない。

#### 結果

箱錠のコネクタが正しく接続できていません。

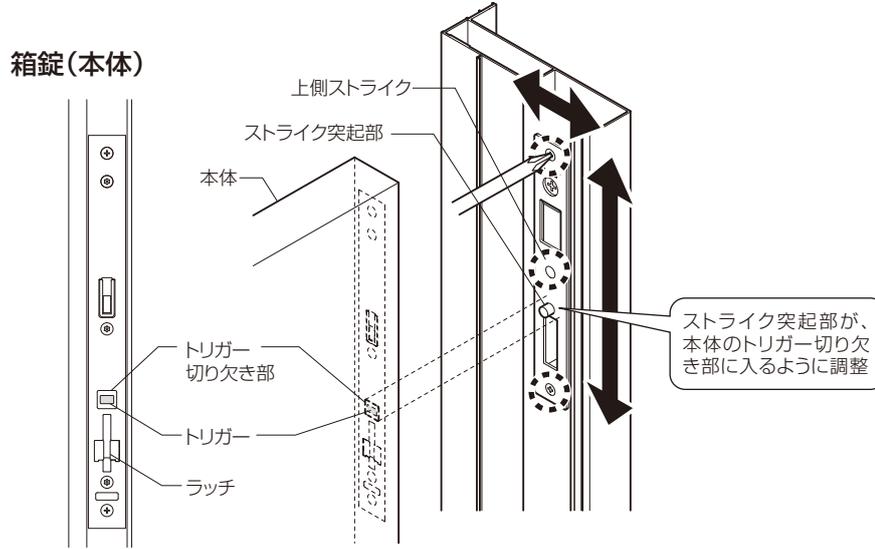
電池が正しく入れられていません。

扉を開けた状態で実施

※本確認が終わりましたら工事期間中(工事用キー使用中)は、電池を抜いてご利用ください。自動施錠など、予期しない作動から、閉め出しにあうおそれがあります。

### ⑤ストライクの調整-1<上側ストライク>

- ラッチがかからない場合は、上側ストライクの位置を調整してください。
- ストライクの突起部が箱錠(本体)のトリガー切り欠き部に入るように調整してください。

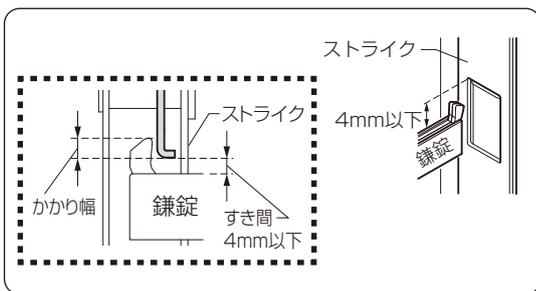


### ⑥ストライクの調整-2<上側ストライク、下側ストライク>

- 次の①～④の確認を行い、ストライクの調整を実施してください。
- ①ラッチがかかった状態でカギがスムーズにかかるか(ストライクと接触しないか)
- ②鎌錠とストライクのかかり幅が十分確保できているか
- ③エントリー仕様の場合は電動で施解錠できるか
- ④施錠した状態でラッチを解除した際の開方向のガタツキが大きいか(気密材にすき間ができないか)

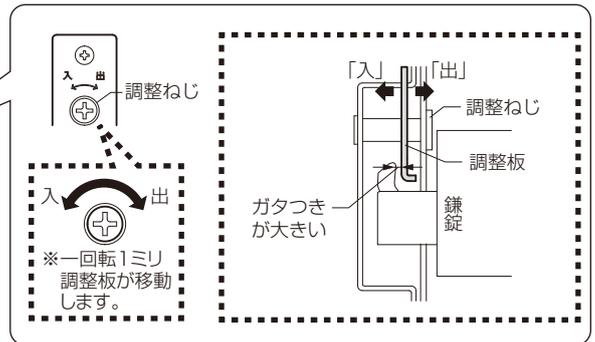
#### ■カギがスムーズにかからない、鎌錠のかかり幅が少ない場合

ストライクの取付けねじをゆるめ上下、室内外の位置を調整してください。ストライクの切り欠き上端と鎌錠の上面のすき間は、4mm以下を目安に調整してください。



#### ■開方向のガタツキが大きの場合

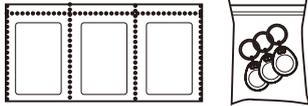
ストライクの調整ねじを回し調整板の位置を調整してください。



⑦カードキー、タグキー、リモコンを使った作動確認

①同梱のカードキー3枚またはタグキー3個は未登録です。(以下、「タグキー」は省略)

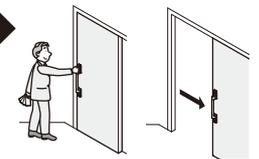
●**カードキー・タグキーの場合**  
作動確認を行う際はクリアケースに入れたまま登録を実施してください。



●**リモコンの場合**  
リモコンのボタンを押してランプが点灯する(電源がONになっている)事を確認します。  
※OFFの場合は、リモコンの電源をONにしてください。出荷時は電源がOFFになっております。



解錠し、ドアを開けます。  
※登録終了まで開けたままにしてください。



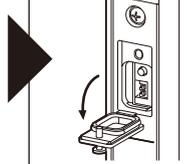
室外側

②フタのねじをゆるめます。

手回しドライバーをご利用ください。  
約10回まわします。



フタを外します。



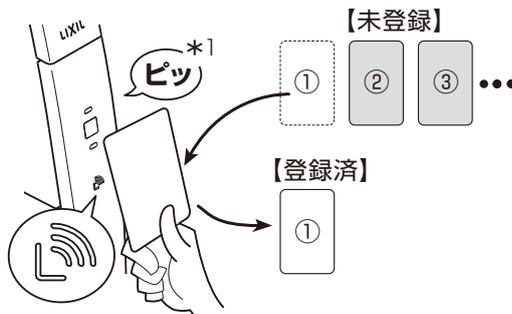
登録ボタンを1秒押し、離すと「ピー」音が鳴り、LEDが点滅し、登録モードに入ります。



③カードキーとリモコンを登録します。(続けて登録可能です。)

●**カードキーの場合**

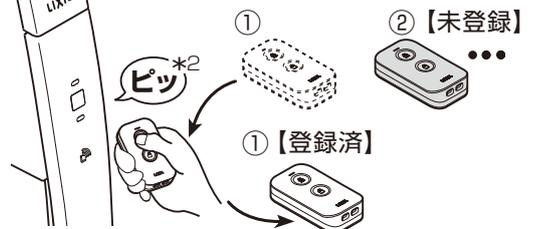
1枚ずつカードキーを「LIXIL」マークにかざし登録します。



\*1 登録の都度、登録済み枚数分だけ「ピッ音」が鳴ります。(例: 1枚目「ピッ」、2枚目「ピッ、ピッ」)  
※最大登録枚数は10枚です。

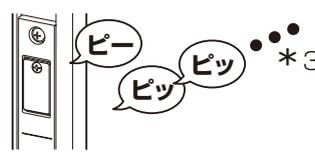
●**リモコンの場合**

1個ずつリモコンのボタンを押し、登録します。



\*2 登録の都度、登録済み個数分だけ「ピッ音」が鳴ります。(例: 1個目「ピッ」、2個目「ピッ、ピッ」)  
※最大登録個数はスマートフォンと合わせて10個です。  
※1つのリモコンに最大10台のドアを登録できます。  
11台目のドアを登録すると、リモコンからは1台目のドアの登録情報が自動的に削除されます。

④約30秒待つと登録モードが終了し「ピー」音の後、登録枚数分「ピッ」音が鳴ります。\*3



\*3 登録済みのスマートフォンを含めた、カードキーとリモコンの合計登録個数分鳴ります。

⑤フタを元に戻します。

下部のツメをひっかけてからねじを締めてください。



⑥外に出てカードキー、リモコンを使って施解錠の確認を行ってください。

●**カードキーの場合**

タッチボタンを押し、カードキーを「LIXIL」マークにかざします。



●**リモコンの場合**



2つのカギが施解錠することを確認します。



※エラー音、エラー表示が点く場合は、9/10を参考に対処してください。

●**お願い**  
※電気錠操作では上下2ロックになりますが工事用キーで操作できるのは上シリンダーのみになりますので、別の出入口を確保するか室内に人が居る状態で確認を行ってください。閉め出しのおそれがあります。  
※工事中は連動施錠機能をONにしないでください。下の錠が施錠されると工事用キーで解錠できなくなります。



## ■商品仕様

### ■ドア側(電池式)

入力電源仕様	DC6V アルカリ乾電池 単3形 8本(4本の直列接続を2並列で接続)
電池寿命	約 1年(常温20℃ 操作: 10回/日)
出力周波数	2402~2480MHz / 13.56MHz
電界強度	85dB $\mu$ V/m / 112dB $\mu$ V/m(参考値)
無線局の種類	誘導式読み書き通信設備 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム
使用環境温度範囲	-10~50℃(電池を除く)
使用環境湿度範囲	20~90%(相対湿度)
保存環境温度範囲	-20~60℃
スマートフォン登録可能数	計10台(最大同時接続数6台)
リモコン登録可能数	
カードキー登録可能数	

### ■リモコン

入力電源仕様	DC3V リチウムコイン電池CR2032 2個
電池寿命	約 1年(常温20℃ 操作: 10回/日)
出力周波数	2402~2480MHz
電界強度	85dB $\mu$ V/m(参考)
無線局の種類	2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム
使用環境温度範囲	-10~50℃
使用環境湿度範囲	20~90%(相対湿度)
保存環境温度範囲	-20~60℃

### ■カードキー

使用環境温度範囲	-10~50℃
保存環境温度範囲	-20~60℃

### ■タグキー

使用環境温度範囲	-20~60℃
保存環境温度範囲	-20~60℃

※本機器は総務省の技術基準に適合しており、総務大臣の許可なしに改造して使用することはできません。  
改造すると法律により罰せられることがあります。